

編集後記

例年 1 月号の特集ではその年の干支を取りあげてきた。だが 3 年前に一巡してしまい、一昨年は苦しまぎれ(?)の猫で、昨年はそれらしく凧だった。今年は正月気分にあふさわしい世界の縁起モノとした。なかに「子や家族の幸せを願う想いは今もむかしも同じ」とあるが、古今東西共通の願いだろう。だとすると、縁起モノにも共通性がありそうだが、意外と違いも少なくない。それも並べて読むから気づくのであり、通文化の比較は今なお民族学ないし文化人類学の魅力のひとつだと思知らされる。その意味で昨年 11 月、大盛況のうちに閉幕した特別展「驚異と怪異」と 3 年前の特別展「ピース」は、並べて見る通文化研究の醍醐味を実感させてくれる展示だった。

本誌 2019 年 11 月号「シネ倶楽部 M」の写真キャプションに関して読者から問い合わせがあった。鋤が裏返っており、田を耕しているのではなく脱穀作業ではないかというものだ。筆者はすぐに現地に尋ね、大きな土の塊を砕く耕起作業のひとつであり、キャプションに間違いはないと確認してくれた。丁寧に見て問い合わせをしてくださった読者に、また敏速に対応してくれた筆者にお礼を申し上げたい。本誌にはかつて「読者のページ」というコーナーがあったが、現在は無い。とはいえ誌面は読者に育てられる。質問やご意見などをお寄せいただければありがたい。

(南真木人)

- 表紙：花輪が捧げられたラフィン・ブッダ
(撮影：福内千絵、南インド・ティルパトゥル、2017 年)

次号の予告

特集

「朝枝利男とガラパゴス」(仮)

みんぱくをもっと楽しみたい方のために 国立民族学博物館友の会のご案内

友の会は、みんぱくの活動を支援し、博物館を楽しく積極的に活用するためにつくられました。

毎月『月刊みんぱく』をお届けするほか、さまざまなサービスをご用意しております。

維持会員・正会員

『月刊みんぱく』の送付／友の会機関誌『季刊民族学』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加／研究者同行の国内外研修旅行への参加 など

ミュージアム会員

『月刊みんぱく』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加 など

繰り返し入館できる**みんぱくフリーパス**や、学校・学部単位で利用できる**キャンパスメンバーズ**など各種会員種別もご紹介します。目的にあわせてご利用ください。

詳細は、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話 06-6877-8893 / 平日 9:00 ~ 17:00)



月刊みんぱく 2020 年 1 月号

第 44 巻第 1 号通巻第 508 号 2020 年 1 月 1 日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 園田直子
編集委員 南真木人(編集長) 上羽陽子 齋藤晃
菅瀬晶子 三島禎子 吉岡乾
デザイン 宮谷一欒 長岡綾子
制作・協力 一般財団法人 千里文化財団
印刷 能登印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約 15 分。
- 阪急茨木市駅・JR 茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約 13 分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料) から徒歩約 5 分。「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通ください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんぱくフェイスブック

<https://www.facebook.com/MINPAKUofficial>

みんぱくツイッター

<https://twitter.com/MINPAKUofficial>

みんぱくインスタグラム

<https://www.instagram.com/MINPAKUofficial/>

みんぱく YouTube

<https://www.youtube.com/user/MINPAKUofficial>

